

# 当院のバスキュラーアクセスの有効管理を目的とした試み

昭和大学病院血液浄化センター

宮本広美、濱島千草、竹内千草、金子しのぶ、塩崎伸江、高橋千恵子、小笠原京子

## はじめに

維持血液透析患者では、適切な透析が継続できるようにバスキュラーアクセス（VA）を維持することは、患者予後の向上につながる必須の事項である。適切にVAを管理するには、VA維持の方法と日常生活での注意点を患者に教育する必要がある。また、患者に関わるスタッフが十分にVAを観察し、状態を把握することが求められ、問題点が生じる可能性がある場合には、早期に抽出し、対策をとることが肝要である。このことは、スタッフ間のVA管理に対する共通した認識を持つことの重要性を示している。

当院では病院全体の大規模な病床編成にともない大幅にスタッフが配置転換され、透析看護経験5年以上が8割を占める血液浄化センターに比べ、腎臓内科病棟スタッフの約7割が透析看護未経験者となった。そのため、病棟と血液浄化センター間で透析看護の実践能力に差が生じ、不十分な看護知識や経験を有するスタッフがVA管理を実践しなければならない問題点が生じた。

今回の報告では、適切なVA管理を実践する目的で実施した取り組みとその結果を報告する。

## 方法

- 1) 腎臓内科病棟・血液浄化センタースタッフを対象に、VA管理の一般的な知識と同管理に対する意識調査を実施した。
- 2) 調査結果から、VA管理に必要な事項で十分に理解できていない項目を抽出し、勉強会で知識の向上を図った。勉強会は、知識テスト・意識調査の結果により、基礎的な内容を中心に作成した。また、管理方法の統一を図るため、貼付用局所麻酔剤について透析後の絆創膏を剥がすタイミングなど、現在病棟スタッフが行えていないVA管理についての説明を加え、統一化を図った。
- 3) 勉強会后、再度調査を実施して意識の変化を確認した。調査内容はVAの種類や適応、管理に関しては当院で患者指導用パンフレットに用いて

いる内容を基に作成した。意識調査は、知識テストの項目、日常生活管理などについて質問し、5段階評価とした。

## 結果

20項目の意識調査の中で、勉強会の効果が期待された項目の結果を示す。

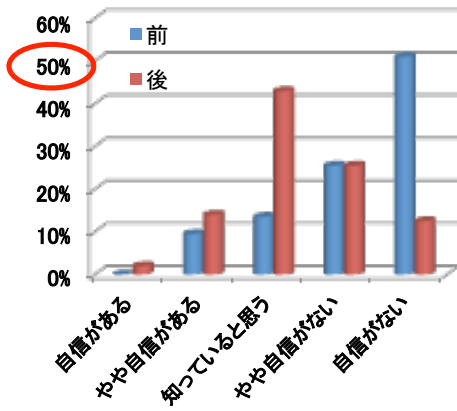
- 1) 「VAの種類を知っていますか」の問に対し、勉強会前は「自信がない」という回答が半数を占めていたが、勉強会后「知っていると思う」への変化がみられた(図1)。
- 2) 「VAの各特性を理解し説明する事が出来ますか」の問に対し、勉強会后「自信がない」というスタッフは少なく改善傾向にあるが、全体からは約半数が「やや自信がない」という結果になった(図2)。
- 3) 「シャント穿刺時の不安や苦痛を理解し軽減に努めていますか」の問に対し、変化の割合は少ないが全体の約半数以上が、「知っていると思う」以上の結果となった(図3)。
- 4) 「自己管理指導は患者の理解度や退院の生活を想定し行っていますか」の問に対し、「自信がない」という項目は減少したが、全体的には、「やや自信がない」が半数を占めていた(図4)。

勉強会については、病棟・血液浄化センター共に、看護や業務に役立ち今後も学習したいという結果となった。

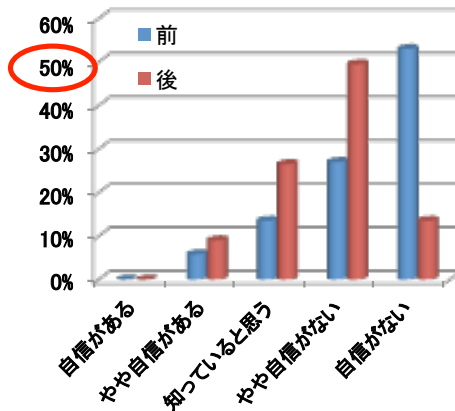
## まとめと課題

勉強会開催により、今までの管理や指導が不十分であったことが再確認でき、統一したVA管理の必要性や管理に関する興味が高まった。また、「自信がない」と答えたスタッフが減少しており、今後、適切なVA管理・指導を行うために、継続した勉強会や実践指導の必要性が考えられる。病棟や血液浄化センターのVA管理に関する実践能力の高い看護師が、各スタッフが自立できるよう実際に関わっていくことも重要となる。また今後、腎臓内科病棟以外の病棟に対しても、VA管理の知識の共有が行えるよう指導範囲の拡大に取り組む予定である。

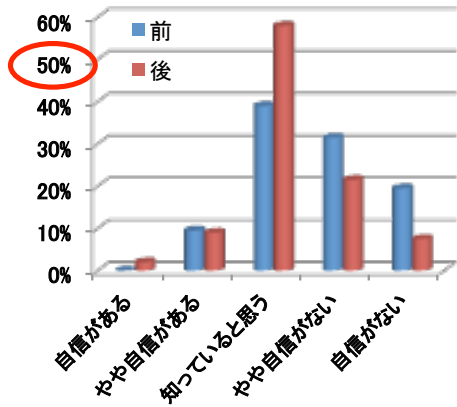
結果① VAの種類を知っていますか



結果② VAの各特性を理解し説明する事が出来ますか



結果③ シヤント穿刺時の不安や苦痛を理解し軽減に努めていますか



結果④ 自己管理指導は患者の理解度や退院の生活を想定し行っていますか

